

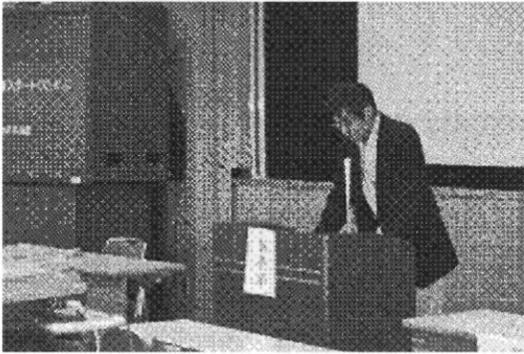
【報告1】

大阪大学文書館スタートのために

大阪大学文書館設置準備室 菅 真城

多くの国立大学の文書館・史資料室あるいは自治体文書館の設置は、大学史や自治体史

編纂が前史であるといえます。ところが大阪大学文書館は、ポスト年史編纂ではなく、まさに「ゼロからのスタート」になるという特徴をもっています。年史編纂という背景もない大阪大学文書館は、当該大学すなわち親組織の性格を反映するものになると強調されていました。以下、概要です。



報告者の菅真城氏

■大阪大学の歴史と文書館設置の準備へ

1931(昭和6)年に大阪帝国大学が設置された。理学部と医学部、それに工学部など理系系のみの総合大学として開学している。文科系学部は1948年の法文学部の設置からである。現在、11学部、15研究科、5研究所などを擁する規模の大学に発展している。

実は1985年に『大阪大学五十年史 通史』を編んでいる。五十年史編纂が完了したあと、「大学史資料館」「大学史資料センター」構想があったが実現しなかった。ようやく2006年7月に文書館設置準備室が設置され、具体的な文書館構想へと始動したものである。『大阪大学文書館設置準備室だより』第1号(2007年)によると、設置準備の発端は、大学の法人化が目前に控えていること、情報公開法が施行されたこと、全国の国立総合大学での文書館の設置が増えていることなどが背景にあったうえ、正面から文書館の設置を強く要望していたことが実ったとしていた。

■文書館準備室の活動と課題

準備室の設置要項には、「大阪大学の歴史

に関する文書の収集、整理、保存及び公開を目的とする文書館の設置準備を行う」とある。現在の業務は、寄贈された個人文書の整理、50年史編纂資料の再整理、名誉教授のビデオ撮影、法人文書の保管状況の調査などが中心である。当面の課題は、大学の次期中期計画(平成22年度～)に「文書館設置」を明記することである。

■大阪大学文書館の使命と大学アーカイブズの理念

大阪大学文書館の使命は、教員・職員・学生に対しては大学の歴史や理念を明らかにして、大阪大学に在籍するアイデンティティの確立をめざすことであり、社会に対しては大阪大学の活動の軌跡をアピールすること、つまり広告塔のひとつになることである。文書館の仕事は、非現用法人文書、学内刊行物、大学関係者の個人資料の収集と保存・公開であるが、特に強調するのは、「いかに法人文書の収集・保存・公開が出来るかにかかっている」ということである。法人文書以外の歴史的資料を軽視しているものではなく、大学アーカイブズの中核資料は法人文書であることは間違いがない。



大学アーカイブズの役割は、大学内外の研究・教育および大学の管理運営に寄与し、そのことを通じて社会に貢献することにある。ゼロからの大学アーカイブズに求められているのは、明確な戦略だと結論づけた。